

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (マネジメント)	氏名 (Author)	栗田 彰
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
論文題目 (Title) 固定資産“航空機”にまつわる利益調整に関する研究 -国内定期航空会社 全日本空輸・日本航空を中心に-			
論文審査担当者 (Dissertation Committee)			
主査 (Committee chair)	講師 金 宰 煜		
審査委員 (Committee member)	教授 林 幸 一		
審査委員 (Committee member)	准教授 奥 居 正 樹		
審査委員 (Committee member)	摂南大 朴 景 淑 学教授		
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)			
1. 概要			
<p>本論文は、装置産業で資本集約型産業の特徴を持つ航空会社の利益調整に関する研究である。航空会社の特徴の一つは、利益調整を誘発させやすい収益構造と固定費の割合が高いコスト構造をもっており、国内経済状況の影響をうけ多少の収入減でも赤字になるリスクを常に内包していることである。このような背景のもとで、本研究は、航空会社における経営者の裁量行動と動機、利益調整のプロセスを有価証券報告書などの過去50年間のデータを収集し分析することで、航空会社における会計的利益調整行動のメカニズムと企業業績との関係を明らかにしている。</p>			
2. 論文の構成			
<p>本論文は、序章から終章までの9章で構成されている。第1章から第7章までの概要は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、先行研究をレビューし、企業経営者の利益調整行動に関する研究と、裁量行動に関する研究をまとめた上、先行研究における問題点を指摘している。</p> <p>第2章「航空機材の調達資金」では、航空機材の調達資金に関する調達方法や調達状況について調査、分析し議論している。</p> <p>第3章「航空機材の取引に関わる会計」では、航空機材の売却と処分に関する実施状況について分析し、各航空会社の業績状況に関連した処理方法などについて考察、その問題点を指摘している。</p> <p>第4章「航空機材のリース取引に関わる会計」では、航空機売買取引とともに実態的裁量行動の対象となるリース取引について、各社の活用状況を分析している。</p> <p>第5章「航空機材などに対する会計処理」では、会計的裁量行動の対象となる航空機材に対する会計処理の実態状況について分析、議論している。</p>			

第6章「航空事業費」では、燃油費、乗員訓練費、整備費の内容とその実績について検討をおこなっている。

第7章「航空事業収入」では、裁量行動の対象となる運賃、路線参入、撤退について議論している。

3. 論文に対する評価

本研究は、以下の3点より評価できる。

第一に、学術的意義である。本研究は、既存先行研究の問題点を踏まえた上、航空会社における政治的、社会的環境変化と会計的利益調整行動のメカニズムを明らかにしたものとして、航空会社の裁量行動と利益調整に関する研究を深めている。今後の航空会社の経営状態、財務報告などと裁量行動に関する関連領域に一定の示唆を与えているものとして大いに期待できる。

第二に、研究方法と分析データの質である。本研究は、航空会社の過去50年間の膨大なデータを整理、再分析することを通して、航空会社による裁量行動とその動機、利益調整プロセスの仕組みを明らかにし、航空会社の収益構造と裁量行動に関する新しい視点を提示している。

第三に、関連研究における実践的意義である。本研究では航空会社の長期にわたる資料データを収集し、新たに独自整理し、分析している。本研究の情報データ「使用機登録一覧」は、今後の関連領域研究で、従来の議論の再構築と新しい観点からの議論を促すものとして十分に期待できる。

以上、審査の結果、本論文の著者、栗田 彰は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。